

伊賀市議会研究研修報告書

伊賀市議会議長 様

報告者

議員名

川上善幸

研修会名

全国市議会議長会研究フォーラム

日時

11月14.15日 13時00分～

場所

宇都宮市文化会館

【研修の成果】

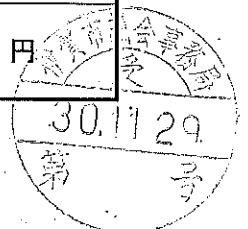
別紙の通り

費用

旅費：49,420円

研修参加費：7,000円

合計：56,420円



【全国市議会議長会研究フォーラムの成果・所見等】

基調講演〈地域共生社会をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち〉

- ・日本人の半数が107歳まで生きる時代となる。
- ・幸福感は広がらず、困窮化、孤立化が増えるばかり。
- ・支える側が肩車から重量挙げのようになるだろう。
- ・居住形態も地方人口は減少傾向で、都会は増加傾向となる。
- ・ピンチをチャンスに変えた自治体と、ピンチに飲み込まれた自治体に分かれる。
- ・社会的弱者を認定し保護する福祉から、皆を元気にする包括支援と活躍の場づくり、新しいつながりづくりが必要。
- ・地域福祉の観点で制度、分野ごとの「縦割り」や「支えて」「受け手」という関係を越えて地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し地域を共に創っていく社会が重要。
- ・静岡県富士市では「ユニバーサル就労推進条例」があり、一般賃金職員、最低賃金職員、コンピューターと業務の分解切り出しで効率化といった方法で業務を行っている。または自治体が企業に仕事の切り出しを働きかけている例もある。
- ・定年後男性の地域デビュー支援が大事、高齢男性の地域デビューを遅らせてはならない。流動性知能は低下しても結晶性知能は、60代後半まで伸びていくので可能性は十分ある。
- ・養老サービスから「幼老」サービスや「積極的老老介護」へ。シルバーママ、グランドシッターの養成と認定などがある。
- ・「ずっと出番」のメニューづくり、シルバー人材センターや地域デビュー塾、居住支援協議会を設置し、ケアと居住をつなぐ地縁づくりなど。

パネルディスカッション〈議会と住民の関係性について〉

- ・SNS時代における政治への忌避感、衆目の前で争うこと、批判することを嫌がり、自分が傷つかない閉鎖空間で一方向的に悪口雑言を繰り返す。
- ・計画策定を通じた国による市町村統制と責任転嫁。地域特性に応じて自治体議会で議論し、選択できる幅が小さくなっている。2016年の1年間に、法律によって市町村へ新たに求められた計画は新規立法6つ、改正法4つで、合計10もある。
- ・法律によって策定が求められている市町村計画がかなり増加している。

- ・市民活動から議会への問いかけで、法律に基づかない事務処理、陳情に対して行政を擁護し、議会は自らの権限放棄、議会として市民活動と協力できる余地があるのではないか。
- ・議会報告会は、車座、テーマ設定、地域性課題などで進行。または開かれた議会感、第三者によるファシリテートや女性議会、議員間討議などをおこなっている市もある。
- ・会派は役員人事の為だけという疑問もある。
- ・定数や報酬は「あり方検討会」などで。
- ・議会事務局は、やる気のある人で配置し、予算配分と人員をしっかりと設置する。
- ・議員の役割とは議決だけではない。そして説明が少なく、いきなり採決になぜ入るのか疑問。
- ・久慈市議会では「かだつて会議」を開催し、市民と議会が協働する場を目指しており、ワールドカフェ形式(対話手法)やファシリテーション(対話スキル)形式をとっている。
- ・新潟市議会では、主権者教育推進プロジェクトを行っており、議員として学校等と協働で主権者教育を進め、平成28年12月に新潟高志中等教育学校で初回プログラムを実施した。
中身は、①模擬市議会(合意形成のロールプレイング)、②地域課題の解決に向けたワークショップ、③市議会の傍聴・見学、④議員との交流・意見交換。
- ・犬山市議会では、市民フリースピーチ、女性議会、親子議場見学などを取り組んでいる。
中でも市民フリースピーチは定例会開催期間に、市民が議場で議員に対し、市政全般に関して5分間自由に発言ができる。市民からの意見は全員協議会で議員間討議を行い、申し入れなどのアクションをとる。協議結果は文書やホームページで公開している。定員7に対し応募は10名くらい。
女性議会は公募で「いちにち女性議員」を募集し10名が参加した。進め方は事前勉強会のあと、模擬議会で一般質問を行い、その後一般質問での行政の答弁に対する疑問を「いちにち女性議員議員間討議」として意見交換、その結果を議長に申し入れる。議長は申し入れ内容を全員協議会で討議、意見集約できたものを行政に申し入れる。
- ・最後には竹原市議会議長が女性議員としての12年間の活動を報告されたが、「政治家は目的ではなく手段」生活者の生の声を広く受け止め政策へ活かす。との言葉が一番印象に残る言葉だった。

旅費請求書続紙 (明政クラブ)

出張月日	出発地	経路	到着地	鉄道・船・車賃				食卓料	日当		宿泊料		出張理由 (目的・場所)
				料程	運賃	特急料金 急行料金	寝台料		日数	額	宿泊	額	
					円	円	円	円	日	円	夜	円	
11月14日	伊賀神戸	近鉄	名古屋	112.2	1,560	1,320							第13回全国市 議会議長会 フォーラムin宇 都宮(1日目) 宿泊代8000円 (1泊朝食付 き)+夕食代 1700円
	名古屋	新幹線	東京	366.0	7,560	4,630							
	東京	新幹線	宇都宮	109.5		2,790							
	宇都宮	JR	小山	28.9	500			1	1,500	1	9,700		
11月15日	小山	JR	宇都宮	28.9	500								第13回全国市 議会議長会 フォーラムin宇 都宮(2日目)
	宇都宮	新幹線	東京	109.5	7,560	2,790							
	東京	新幹線	名古屋	366.0		4,630							
	名古屋	近鉄	伊賀神戸	112.2	1,560	1,320			1	1,500			
計					円	円	円	円	2	円	1	円	合計
					19,240	17,480				3,000		9,700	49,420

※フォーラム会場は宇都宮市だが、申込み多数で抽選により宿泊先が小山市内のホテルしかとれなかったため、宇都宮～小山間の交通費も支出する。

領収書等添付用紙	議員名	川上善幸
調査研究費・(研修費) 広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費 人件費・事務所費 (該当項目に○をつけてください。)		

領収証

No. _____

川上善幸 様 H30年10月26日

金額	4	3	5	7	2	0
----	---	---	---	---	---	---

内
消費税等

但 11/4~15 交通費
上記正に領収いたしました



現金		
小切手		

三重県伊賀市上野丸之内500
コスモス観光ハイトピア伊賀店
TEL 0595-22-1188
FAX 0595-22-1186



HISA00#778

No.0454-1

領収証 RECEIPT

J T B 宇都宮支店
宇都宮市池上町4-1
TEL : 028-614-2001
平成30年11月26日



川上 善幸 様

下記の金額正に領収いたしました。

¥8000*

出納責任者	取扱者

第13回全国市議会議長会研究フォーラム
但し、宿泊代として(1泊朝食付)

領収個所名及び領収者印の無いもの並びに金額訂正のものは無効です。

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

平成30年11月22日

伊賀市議会 川上 善幸 様

参加費領収書

第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 山田



東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮

参加代金として

平成30年11月14日・15日開催 (宇都宮市)

第13回



全国市議会議長会 研究フォーラム

平成30年

日時

11月14日(水)・15日(木)

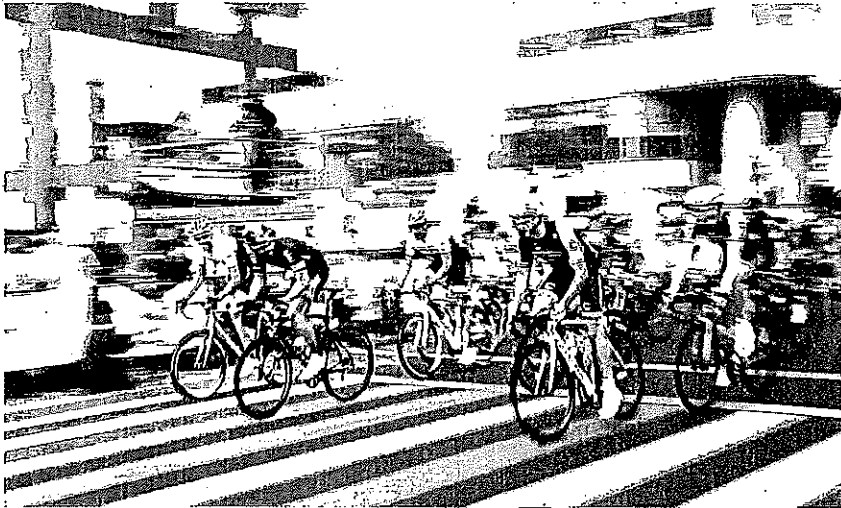
13:00~(開場・受付12:00~) 9:00~(開場8:30~)



会場

宇都宮市文化会館

栃木県宇都宮市明保野町7-66



■主催：全国市議会議長会 ■後援：総務省 ■実施：第13回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

第13回

全国市議会議長会 研究フォーラム



主催者挨拶



全国市議会議長会会長
札幌市議会議長
山田 一仁

第13回全国市議会議長会研究フォーラムを、ここ宇都宮市において開催いたしましたところ、多数のご参加をいただき誠にありがとうございます。

さて、地方議会は多様な民意の集約を本義とし、議会制民主主義による住民自治の実現という極めて重要な機能を担っております。議会改革の一環として、議会報告会、休日・夜間議会や子供・女性議会の開催など、住民代表としての機能強化を積極的に推進しております。

しかしながら、必ずしも住民に身近で魅力的な存在とはなっていない面があると思われま。た、近年議員選挙の投票率は低下傾向にあり、加えて小規模市町村においては、地方議会議員のなり手不足の問題が顕在化しております。

本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、さらなる地方議会の権能強化を目指し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的としております。

今回は、「議会と住民の関係」をテーマとし、平成31年に実施される統一地方選挙を控え、人々の社会と生活が大きく変化する時代において、地方自治の根幹をなす議会が住民とどのように関わり、どうすれば住民の議会に対する関心を高めることができるか、広く討議してまいります。

各分野における専門家、識者の方々や議員の皆様方によって活発な議論が交わされ、実りある成果が得られますことを期待するとともに、皆様方の今後の活動の一助となることを祈念いたします。

プログラム

■第1日目 11月14日(木)

12:00	開場・受付
13:00	開会式
13:20	第1部 基調講演 「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち 宮本 太郎 中央大学法学部教授
14:20	休憩
14:40	第2部 パネルディスカッション 議会と住民の関係について コーディネーター 江藤 俊昭 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 コーディネーター 今井 照 (公財)地方自治総合研究所主任研究員 本田 節 有限会社 ひまわり亭代表取締役 神田 誠司 朝日新聞大阪本社地域報道部記者 小林 紀夫 宇都宮市議会議長
16:40	次期開催地挨拶
16:50	次期開催地挨拶終了
18:00	第3部 意見交換会【会場-宇都宮グランドホテル】
19:00	意見交換会終了

■第2日目 11月15日(金)

8:30	開場
9:00	第4部 課題討議 議会と住民の関係について コーディネーター 江藤 俊昭 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 コーディネーター 桑田 鉄男 久慈市議会副議長 伊藤 健太郎 新潟市議会議員 (新潟市議会主催者教育推進プロジェクトチームリーダー) ピアンキ アンソニー 犬山市議会議長 道法 知江 竹原市議会議長
11:00	閉会式
11:30	第5部 視察

エコノミーとエコロジーが調和した バランスある地域づくりを

「農村レストラン」「ひまわり亭」を拠点に、
人づくり、まちづくり



有限会社ひまわり亭
代表取締役
本田 節

変わり者の主婦が 地域づくりを始めたきっかけ

平成元年今から30年前、まだ9歳、7歳、4歳の3人の娘を連れて「地域づくり」という名の元に、各地に向いては研修や交流を重ねていた、変わり者の主婦が熊本県の人吉市で活動をしていた私です。当時、熊本県は日本一運動という地域おこしが盛んで当時の細川護熙県知事が提唱し、全県下に300程の地域づくり団体が誕生した時期でもありません。

幼い子どもを連れ、好奇心旺盛の私はこれまで知らなかった様々な各分野の地域リーダーに出会うたびに多くの刺激をもらい、何かやりたいという思いが日に日に強くなっていきました。そんな時、37歳の私は進行性のガンにおかされ、1年近くの入退院を繰り返しながらの闘病生活を強いられました。そうした中で、「2度とない人生」後悔のない生き方、そして自分の生き様を子ども達に残してあげることが私の生きた証ではないか」と思い、あらゆる苦しい治療を乗り越えて少しずつ元気を取り戻していきましました。

それをきっかけとして始めたのが地域づくり団体

「ひまわりグループ」です。そこで、1人暮らしの高齢者への声かけを兼ねての弁当宅配のボランティアを始めました。仲間は50代から70代までの20人で、世代の違う地域の主婦達は皆、お料理が大好き、おしゃべり大好き、人の世話が大好き。そんな仲間達で「食・農・命」をテーマに活動していくうちに、「これまでのボランティア活動も楽しいけれど、生涯現役でもっと生きがいや居場所づくりや、地域の役に立ちたい」という話になり、それじゃあ、何ができるかと色々考慮した結果、「農家レストランをやりたい」ということになったのでした。

農村レストラン 「ひまわり亭」がオープン

そして、「郷土の家庭料理 ひまわり亭」がオープンしたのです。様々な困難はありましたが、私の覚悟と仲間の強い思いと、そして、もう1つの大きな要因は人生の師と仰ぐ、球磨郡湯前町下村婦人会農産加工組合代表の山北幸さんとの出会いでした。山北さんは、平成25年2月11日に「まだ99歳」と言いながら天国へ召されました。戦後の厳しい時期、女性の経済的自立を求めて、流通にのらない農産物を加工し漬け物として商品化に取り組んだ農村ビジ

ネスの走りです。今で言う6次産業化です。この出会いが私の人生を大きく変えました。そこで、ひまわり亭の雇用は「待ってました、定年！60歳新入社員、生涯現役！」をモットーとし、高齢者雇用と子育て支援型としました。人が年を重ねるということは、経験、知恵、技、感性が豊かになることです。その人こそ資源という、高齢化社会を逆手に捉えたコミュニケーションビジネスを考えています。

現在のひまわり亭の業務内容は、①地産地消による家庭料理の提供（レストラン、弁当、惣菜）②食を通じた地元の情報発信（地産地消のイベント等、WEBサイトの活用）③地元の旬の食材を使った食文化の創造と伝承（郷土料理伝承塾、レシピ本作成）④食や命、農をテーマとした各種イベント開催⑤グリーンツーリズムの推進（人吉球磨グリーンツーリズム推進協議会）⑥食育活動の推進、です。今後も、この6つの柱を中心として食資源を活かしたまちづくり、人づくり、元気づくりの拠点としてネットワークを広げて行きたいと思っています。

これからは、これまでの地域づくりなどの活動をより再活性化し、持続可能な事業展開のために、エコノミー（経済の振興活性化）とエコロジー（環境保全）が共生・調和したバランスある地域づくりを目指していきたいと思っています。

熊本地震から学んだこと

近年、日本各地で相次いで発生した自然災害。私達の地域づくりは災害における、いざというときの